

理学療法かわら版

一般社団法人
山形県理学療法士会

目次

理事リレーコラム	1	研修会報告	5
功労賞授賞式	2	事務局より・編集後記	12
認定理学療法士の活躍	4		



理事コラム

最北支部担当理事
最上町立病院
多田 雄一

平成 29 年度より最北支部の担当理事を拝命いたしました多田雄一です。若輩者ではございますが、支部の皆様、先輩方に支えていただきながら、職務を全うできるように精進してまいります。

さて最北支部は、県内 4 支部の中で最も会員数が少ない支部です。面積と積雪は立派ですが、人口に対する専門職の密度が低い地域です。その為、支部の皆様には地域ケア会議や介護予防、市町村の施策等、多くの業務負担をお願いしております。少ないながらも、粒揃いな支部を目指し、地域や対象者様のニーズに答えていきますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

初心を忘れず成長するために。あるケースのデスカンファレンスから学んだことを少しお伝えしたいと思います。その対象者様は 80 歳代の男性で右片麻痺の方でした (A さんと呼びます)。60 歳代後半で脳梗塞を発症し、麻痺との付き合いも長い方でした。約 3 年前に肺炎となり。当院へ入院しました。構音障害が残る A さんの言葉は、慣れるまで聞き取れず、すれ違うことも多かったことを覚えています。

私が担当になった最初の日を、今でも鮮明に覚えています。はじめましての挨拶の時、A さんは、「おまえ、ん、ん。俺のこと、ん。わかんねべ。(どうせお前に病気になった人の事なんか分からないべ)」と吐き捨てるように言いました。筆談を交えながら何とか理解した最初の言葉が、この言葉でした。ストレートな言葉にショックを受けながらも、仕事に慣れはじめ少し怠慢となってきた私に、初心を思い出させてくれた金言でもあります。A さんと関わることで、「最近、本音で患者様と向き合っただろうか?」「理解しようとして努力しただろうか?」「A さんはどれだけ悔しい思いや辛い思いをしながらここにいるのだろうか?」様々な思いが去来しました。私は自分が「うまくこなそう」「効率的に簡素に」「売り上げが良ければいいだろう」といった自分本位な考えで理学療法を行っている事に気が付き、目がくらんだことを覚えています。

一度退院し、しばらく安定していましたが、誤嚥性肺炎にて再

入院なさいました。徐々にご飯を食べられなくなり、衰弱していく自分の体を感じ、いろいろと覚悟をなさっていたようです。朝の挨拶に行くと、涙を浮かべながら、いつものように一生懸命話してくれました。「本当は、家で死にたいんだ。ご先祖様の部屋で。病院には来たくない」。病状の説明の際、家族が「自宅で最期を看たい」と申し出ました。しかし、当町では在宅にて看取ることができません。当町内の医療機関では看取りを行っていないのです。

家族、ケアマネジャー、主治医、看護師、ヘルパー、栄養士、薬剤師。関わるすべての方たちと相談しました。本人の了承を得て、病院で看取ることを決め、ぎりぎりまで自宅にいる事を申し合わせる事が精一杯でした。

退院し 2 カ月ほどたって、A さんは亡くなりました。病院で亡くなりました。家族に看取られ、穏やかな表情でしたが、A さんの希望であった「家で死にたい」。その想いはかなえることができませんでした。長男さんは「家で見えてあげたかったけど、意識がなくなるまで家にいられたので…」悔しそうに、何とか自分を納得させようと話していたことが忘れられません。

私たちは決して良くなっていく場面だけに遭遇しません。A さんのように、人生の終末にも出会います。私のような体験をなさった皆様も、たくさんおいでだと想像に易いです。法律や地域資源、様々な思惑に翻弄され、理想的な関わりができないことも多いです。それでも目の前の対象者様に最大限の幸福を提供するために奔走し、学び、協働することが必要なのだと痛感した経験でした。A さんの想いは、今、地域ケア会議にのり、地域の課題として「在宅を勧めながら看取れない町」という問題提起になっています。今回のデスカンファレンスを通し、我々の仕事は、後悔や失敗も、丸ごと飲み込んで、次につながっていく、そのように感じた体験でした。対象者様、地域の幸せに寄与できるよう、これからも精進し、支部の皆様と奮起していきたいと思っております。

平成29年度東北ブロック協議会功労賞受賞

高橋 穂 先生 早坂 健次 先生 多田 利信 先生



平成29年11月8日(土)、第35回東北理学療法学会において、高橋穂先生、早坂健次先生、多田利信先生が功労賞を受賞されました。

功労賞は、日本理学療法士協会東北ブロック協議会において、長年理事及び監事を務めた方、および多大なる貢献が認められた方より選考し、理事会の決議を経て表彰されるものです。

この度の受賞にあたり、高橋穂先生よりメッセージをご寄稿いただき、早坂健次先生にインタビューさせていただきましたので、是非ご覧ください。

高橋穂先生からのメッセージ



理学療法士を目指して入学してから、かれこれ45年になり、昭和50年に就職してから早43年を過ぎようとしている。何もわからないにもかかわらず、理学療法士というだけでちやほやされた時代から、のうのうと生きてきている。考えてみれば理学療法士を取りまく現状を考え比較してみると、実に幸福であったと言えるのだろう。しかし、草創期の時代であったこともあり、それなりの自尊心や開拓心、あるいは使命感のようなものを持ち合わせていたことは、今年から高齢者の仲間入りをした今でも体の奥底に染み込んでいることを感じます。東京清瀬の田舎で程度の差はあれ、志を持つ仲間と切磋琢磨し、社会に出てからもお互いを刺激し合ってきた時間を大切に幸福に感じています。

さて、印象に残った症例ということですが、これまで何人に対して理学療法を実施したのだろうか、おそらく数千人あるいは数万人？現在もそうであり進行中であるわけですが、印象深かった人はチラチラ脳裏に浮かぶものの一つの症例としては思い浮かびません。

思い浮かぶことと言えば、年を重ね、経験が増すにつれ、今現在向き合っているあの人にはこうすればどうか、ああすればどうかという前方指向ばかりです。経験を増すにつれ、理学療法の困難さや深淵さを感じ、なんとかしたいと思い、その都度実践し学び続けている必要を感じてきました。特にここ数年は訪問リハに従事していることもあり、教えられることがさらに増しました。環境や家族、あるいは近所、隣人、さらにはサービスを担当している福祉や介護関連の人々等々。生活場面で生き、主である症例を前に、医療畑にどっぷりつかっており、実際を実感できてない理学療法を生業とする自分、環境の相違、主体の相違、急性期医療での性急さや生活感の無さ、その他、細かい部分で様々と感じさせられているというのが近況であり、しきりに反省しているところです。

特に最近感じているところと言いますか、悩んでいるところを話させて頂きます。私が、これからの理学療法に何を期待しているのかをこの雑文を読む人々に何か感じ取ってもらえれば幸いです。

理学療法を自分なりに考えると、ヒトの体に対し自分の手や体を使い、様々な情報を与え、何を与えたかを動作や動きあるいは触れ、変化を観察しながら評価し感じ、さらなる変化を求め、その人の疾患、運動、活動、生活、心に対しすべてが良かれと働きかけるこ

とであると思っています。

しかし、そこには今の細分化した科学では連続とつなげることが出来ない困難さが伴います。基礎的な化学は多様な分野において多種多様であり深さは増すばかりです。理学療法に活用できる科学や技術も多くなり目を見張るばかりです。しかし、症例の人生に繋がらないことが多く、わがままな治療をしてしまっていることが多々あります。何を持って繋いでいくべきなのでしょう。理学療法を生業とする者は何を持って繋いでいくことが出来るのでしょうか。今後この懸念は自分にとって益々大きくなっていくものと感じています。

さらに今春の介護保険がらみの改定では、理学療法士の自主性をなるべく発揮できないような改定がなされているようです。政治的な力関係の中、財政がひっ迫する中、致し方ないところかもしれませんが、これから理学療法士を目指す若い人にとっては、あまり喜ばしいことではないように感じます。何が主体になるとこういった改定になるのだろうかとかくさり文句を言いたくなります。

しかし、高齢化が進展し、これからますます理学療法士の理念、科学、技術のすべてにおいて発展し、理学療法士自身が多方面において力をつけなければならないことは自明の理です。

私自身はこれまでもこれからも、一対一で治療することに喜びと意義を感じ、様々な学習と技術的な鍛錬を重ねてきました。何故かと言えば、自分が到達した先にはいつも新しい課題が見えました。追いかけても追いかけても人のシステムは奥が深く、問題は個人的であり、解決する術を誰もがいつも期待を込めて待っていました。実際のことを言えばまだまだこれからだと思っていますが、いかんせん時間が不足してきました。理学療法の困難さは生身の人とお付き合いをする限り深くなるばかりであり浅くなることはないものだと思います。今、理学療法にまい進している人たちに理学療法の奥深さや困難さを感じて頂き、解決策を身につけていく楽しさを経験してもらいたいと思います。

最後に多くの場面でお付き合いしていただいた方々に、いくつかの功労賞等頂けるようになるまで我慢強くご指導頂いた先生方に深く感謝申し上げていたいと思っています。

乱筆乱文ではありますが今後の理学療法に期待しまして振り返りと致します。

これからは、山、川、畑に足を運び自然の奥深さを堪能しようと思っています。

早坂健次先生インタビュー



1. 早坂先生、功労賞受賞おめでとうございます。長い理学療法のご経験の中で先生がこれまでに出会った患者で、印象に残った症例はありますか。

前職場にいた頃の症例ですが、40代女性の脳血管障害を発症された左片麻痺、高次脳機能障害を主症状とした教師です。当時は長期間のリハビリテーションが可能だった頃なので4ヶ月の入院を経て外来で6ヶ月のリハビリテーションを行いました。とてもたくましい人だった、と覚えています。疾患に向き合い、ついに教師の座に復職し、書道を教えられるまで至りました。もちろん通勤のため車の運転も可能になりました。今でもメールのやり取りが続いている患者です。

2. これまでの理学療法士としての人生の中でどのようなご苦労がありましたか。

近年はすごいペースでセラピストが増えていますが、少なかった時代に増員をするように活動していたことです。具体的には県士会活動です。前職場の県立新庄病院に言語聴覚士が欲しくて署名活動もしました。

3. これからの理学療法士に望むこと、期待することはありますか。

「望むこと」と言われてもわからないのですが、今は疾患別算定法になっており、仕事の境目があいまいになっています。理学療法士としての特異性や特化性を考えて仕事をしてほしいと思います。疾患別算定上で理学療法士作業療法士言語聴覚士の区分がつかない現在、理学療法士として突き詰めつつ、特異性や特化性って何だろう？と考えてほしい。その時代時代で社会的背景が違ってくるが、自分が何なのかわからなくなってしまうのではないだろうか？理学療法士としての質が問われる現在、とにかく頑張ってください。

表彰委員会より

受賞された三名の先生方、誠にありがとうございます。

高橋穂先生からは大変感慨深いメッセージをご寄稿いただきました。また、早坂健次先生は静かで穏やかでありながらも熱き情熱を感じさせていただくお話を伺いました。本当にありがとうございました。なお、多田利信先生は日本理学療法士協会賞も受賞されました。次回あわせてインタビューさせていただき掲載する予定です。

ありがとうございました。

認定理学療法士の活躍



今後の取り組みや展望をお聞かせください

私達の訪問看護ステーションでは平成27年からブログを立ち上げ、毎月の出来事を地域の方々に発信しております。また平成29年からは私達の訪問看護ステーション主催で体操教室&お茶のみ座談会を開催しております。今後も現在行っている活動を継続しつつ、地域の方々のお役に立てるように努力して行きたいと思っています。

最後に、これから認定理学療法士を目指す方へアドバイスをお願いします。

今後は生涯学習制度も大きく変わり、平成33年4月からは新制度が実施予定のようです。チャレンジしようか迷っている方は今がチャンスかもしれません。

認定理学療法士を目指すきっかけは何ですか？

現在の職場環境にあります。私は現在、訪問看護ステーションにて訪問リハビリを担当させて頂いております。理学療法士になり12年目になりますが、30代前半のまだまだ未熟者です。ご利用者様やご家族様、他事業所の他職種の方に安心感や信頼感を持って頂くきっかけになればと思います。認定理学療法士の取得を目指しました。

認定理学療法士（脳卒中）
三友堂訪問看護ステーション
佐藤 昌利

資格取得までの苦労した点は何ですか？

私の身近に認定理学療法士を取得した方がいなかったのので、どのように認定試験の勉強をしたらいいのか、どのように症例報告をまとめたらいいのかわからず苦労しました。認定試験は1発で合格を頂きましたが、症例報告は再提出によりなんとか合格を頂きました。

資格取得後の変化や良かった点は何ですか？

認定試験を受けるにあたり理学療法ガイドラインを勉強する必要性がありました。推奨グレードやエビデンスレベルなど資格取得前に比べて意識して注目するようになりました。



平成 29 年度 第 2 回生涯学習部研修会 活動報告

今年度新入職員及び新人教育プログラム未修了者を対象に、研修会を開催いたしましたので以下にご報告致します。

日 時：平成 29 年 9 月 3 日（日）9：30～（受付 9：00）

会 場：山形医療技術専門学校

参加者：77 名

内 容：選択テーマ 5 テーマ

9：40～10：40 「E-1 臨床実習指導方法論」

山形医療技術専門学校 杉原 敏道 先生

10：50～11：50 「D-2 生涯学習と理学療法の専門領域」

鶴岡協立リハビリテーション病院 齋藤 高興 先生

12：50～13：50 「C-4 高齢者の理学療法」

介護老人保健施設美の里 井上 由香 先生

14：00～15：00 「C-3 内部障害の理学療法」

公立置賜総合病院 海老名陽介 先生

15：10～16：10 「D-3 理学療法の研究方法論（EBPT 含む）」

山形医療技術専門学校 長沼 誠 先生

生涯学習部理事より

研修会に参加された皆様、準備をしてくださった生涯学習部部員の皆様、大変お疲れ様でした。今回の研修は、新入会員以外にもたくさんの会員の方からご参加いただきました。新プロを修了へ向かう会員が増えていることに大変嬉しく思っております。

平成 31 年度から生涯学習システムは大きく変わり、研修時間が大幅に増える見込みとなっています。まだ新プロ修了されていない方は、その前に修了することをお勧めいたします。

鶴岡協立リハビリテーション病院 齋藤 高興

新入会員の感想

今年度から理学療法士として勤務させて頂いており、今回の新人教育プログラムは2回目の参加となりました。今回の新人教育プログラムでは、治療技術や呼吸器についての知識のほか、今後経験していくであろう臨床実習指導方法や生涯学習についてなど幅広い分野の講義を受講することができ、理学療法士としてどう活動していくか改めて考える機会にもなりました。

治療技術等に関しては「内部障害の理学療法」、「高齢者の理学療法」を受講し、排痰技術や高齢者に対する評価を学ぶことができました。私の所属している国立病院機構山形病院では高齢の方や自己排痰が困難である患者様の割合が他の病院と比較して多いと感じています。今回得た知識を患者様に還元していきけるよう努めていきたいと思います。「生涯学習と理学療法の専門領域」の講義では、認定理学療法士、専門理学療法士となるまでのステップを詳細に知ることができました。

今回の研修を通して、現在行っている治療を見つめ直すだけでなく、これからの見通しを立てる機会にもなったと感じています。今後も患者様へ還元できるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。

国立病院機構山形病院 佐藤 拓哉

入職から5か月が経ち、2回目の生涯学習部研修会に参加させていただきました。今回の研修では、認定理学療法士や専門理学療法士になるための過程や理学療法の専門領域について多く学ぶことが出来ました。セラピストとしてより効果的な理学療法や根拠のある治療を提供していくため、常に新たな知識や技術を取り入れ、生涯学習を続けることが重要であることを改めて痛感しました。

また、臨床実習指導方法論についても学び、ゆくゆくは自身も後進を指導する立場になるのだと自覚しました。現在はまだ「学ぶ人」としての側面が強いですが、実習生の良き手本として「教える人」になれるよう、理学療法士としての臨床力や接遇を磨いていきたいと感じました。

鶴岡協立リハビリテーション病院 海藤 夏稀

福祉機器・介護用品販売レンタル/車いすオーダー制作

 (有)アシスト

〒991-0048 山形県寒河江市みずき一丁目6-4
TEL(0237)83-5525/FAX(0237)85-5454
E-mail:assist@corp.email.ne.jp

◆山形県厚生省労働省指定◆
 (有) 渡部義肢

◆営業品目◆
義足・義手、コルセット、車椅子、ステッキ、下肢装具、上肢装具、骨格義足(モジュラー)
〒997-0861 山形県鶴岡市桜新町8番地52号
TEL(0235)25-9366 FAX(0235)25-9364

福祉用具開発・レンタル販売 <http://www.tamatsu.jp>

 株式会社タマツ
TAMATSU

本社 山形県鶴岡市美咲町32-7(〒997-0857)
TEL 0235-23-6333/FAX 0235-25-3889

福祉用具の製作・販売・レンタル

風の郷工房 (有)

東置賜郡高畠町一本柳 2535-1
TEL 0238-52-1446 FAX 0238-52-1411
URL: <http://www.kazenosato.co.jp/>
座位保持装置・車椅子
電動車椅子・歩行器など

講義風景

杉原 敏道 先生



齋藤 高興 先生



井上 由香 先生



海老名陽介 先生



長沼 誠 先生



受講生の皆さん



長時間の研修、お疲れ様でした！

文責：山形大学医学部附属病院 辺見 千佳

平成 29 年度 介護予防推進研修会（庄内地区）報告

今年度、山形県地域包括ケアシステム構築推進事業の一環として、介護予防推進研修会を開催いたしましたので報告いたします。

日 時：平成 29 年 12 月 9 日（土）14：00～16：30（受付 13：30）

会 場：日本海総合病院酒田医療センター講義室

参加者：21 名

内 容：1）予防理学療法について	日本海総合病院酒田医療センター	栗田 宜享 先生
2）介護予防について	介護予防通所介護あゆみ	梅本 岳史 先生
3）シルバーリハビリ体操について	特別養護老人ホームおさなぎ	三瀧 英樹 先生
4）質疑応答		

「予防理学療法について」の講義では、予防の目的は参加であることを強調しつつ、その中での健康の考え方、予防が重要視される時代背景について確認し、理学療法士として予防に関わる際の具体的な手法や領域について紹介した。「介護予防について」では、地域包括ケアシステム、介護予防・日常生活支援総合事業、介護保険法についてその変革を確認しつつ、住民主体であること、自立支援であることの重要性を再確認していった。最後に「シルバーリハビリ体操について」では、実際に茨城県へ視察にいった三瀧先生より、シルバーリハビリ体操の内容やシステム、町づくりとも言えるその構築の経緯などについてご紹介いただいた。

質疑応答では主にシルバーリハビリ体操や通いの場といった事業に関するもの、その中での PT の役割について言及するものが挙がった。具体的には以下の通り。

Q. 現行の行政が行っている体操や事業と、シルバーリハビリ体操をどう擦り合わせるか？

A. 行政も現状で十分とは思っていない。それぞれの目的や特徴を確認しつつ、問題の共有ができると良いのではないか。

Q. シルバーリハビリ体操や地域事業での PT の関わり、個別性に対応できる PT をどう育てていくのか。

A. 通いの場もシルバーリハビリ体操の普及も、現状では立ち上げ段階で具体的な体制はまだ整っていない。そういった事業の中で、PT はきっかけ作り、ハイリスク群に対する介入等の役割が考えられる。そのためのマニュアル作成やフォローアップ体制も検討していく必要があるかもしれない。

Q. 地域包括支援推進リーダー、介護予防推進リーダーはどういった活動を行い、今後はどうなっていくのか。業務も考えると、場合によっては負担も大きくなるのではないか。

A. 現在、士会に何らかの派遣依頼があった際にはリーダーが中心になって対応してもらっている。県士会では、質の確保が第一と考えているため勉強会や情報交換会も行っている。業務との調整が負担になることも考えられるが、今のところは調整しつつ進めている。

文責：日本海総合病院酒田医療センター 栗田 宜享





平成29年度 介護予防推進研修会（村山地区）報告

今年度、山形県地域包括ケアシステム構築推進事業の一環として、介護予防推進研修会を開催いたしましたので、以下に報告いたします。

日 時：平成29年12月9日（土）14：00～16：30（受付13：30）

会 場：山形県立保健医療大学第2講義室

参加者：37名

内 容：1) 予防理学療法について

在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト 芦埜 達哉 先生

2) 介護予防について

米沢三友堂病院 宮坂 怜 先生

3) シルバーリハビリ体操について

みゆき会病院 黒田 昌宏 先生

4) 質疑応答

はじめに、高橋県士会長より今回の事業の背景、ならびに近年理学療法士にさらに求められている役割について述べられた。今回の研修会を総括するような挨拶から始まり、参加された方々もスムーズに講義に臨むことができた印象を受ける。

「予防理学療法について」の講義においては、予防の領域や健康の意義、生活習慣病、老年症候群などに触れながら、概論的な内容を展開した。特に、普段行われている理学療法が既に三次予防に位置付けられていることに加え、対象者のさらなる健康行動を促すための方法についての事例を提案した。回収されたアンケート調査の結果からは、予防の重要性は感じていても、なかなか実践できていない、という回答が多く、今後も予防の意識付けや介入のきっかけをつくる仕組みを整えていく必要性が感じられる。また、領域によってはエビデンスが十分に確立されていない分野があるが、どのように介入していくのが良いかわからないという現状も今後の課題として浮かんできた。

「介護予防について」の講義においては、“団塊の津波”というフレーズを皮切りに、我が国の高齢者・介護の現状、様々な事業について説明された。地位包括ケアシステムや介護予防の目指すものについては、これまでも同様の研修会で提示されてきたが、数値や傾向を細かく読み解きながらそのポイントを再確認することができた。来年度は介護保険法改正の年でもあり、今後も国の動向や専門職として何をすべきなのか確実に抑えておきたいところである。これからさらに理学療法士に求められる点としては、対象者を適切にアセスメントし“活動”を促すこと、通いの場などではサポーターやメッセンジャー的な役割で地域の取り組みを後押しすることなどが挙げられる。病院に所属するセラピストが多いことから、まずは周辺地域の特性や取り組みについて知るところから始めるのが良さそうである。

「シルバーリハビリ体操について」の講義においては、シルバーリハビリ体操の存在を知らない参加者が大半を占め、質問も多く寄せられた。茨城県では、住民が住民を育て、支え合うコミュニティがたくさん確立されており、介護保険料や要介護認定者の割合などにも成果が表れている。成功の要因としては、痛みや転倒予防に効果があるという科学性、どんな姿勢でも行える体操である簡便さ、住民それぞれに役割がある主体性と組織性などいくつかの側面がある。山形県でも“通いの場”の活性化に向けて行政が動き始めており、理学療法士には専門職としての助言が求められている。各地で行われている成功例や自分たちの得意な部分を再確認し、地域の事業に参画する準備を進めていきたい。

全体を振り返ると内容が広く、まずは知る、ということの重要性が感じられた。はじめて講師を務めるスタッフも複数名おり、資料作成から講義までのアウトプットの過程を通して理解を深めることができたと思われる。終わりには“カラーバス効果”という言葉も紹介された。各施設での伝達やこれから開催予定の勉強会・研修会などで会員全体の関心が高まり、少しでもたくさんのアンテナが張られることに期待したい。

文責：在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト 芦埜 達哉




医療機器・福祉用具販売レンタル
株式会社 トーク
 TOTAL MEDICAL COMMUNICATION

日医器連通正事業所 第9406017号 〒997-0806
 福祉用具貸与事業所 0670700434 山形県鶴岡市遠賀原字稲荷41-2
 E-mail:took@coral.ocn.ne.jp TEL (0235) 22-1009 FAX (0235) 25-8139

安心と信頼
 ・前腕義手・股義足・下腿義足・骨格構造義肢・
(大型短断端を含む)
 ・腰・胸椎装具・靴型短下肢装具・歩行補助つえ・車イス・
(コルセット)
 山形県指定一級義肢装具士 安達 武雄
有安達プレイス製作所 山形市江俣3丁目15-1
 ☎(023) 681-0456

山形小木医科器械株式会社
 山形市北町三丁目8番20号
 電話 (023) 681-3633 (代)

あなたの笑顔が見たいから
株式会社 蔵王サプライズ
 ●リネンサプライズ・ホスピタルリネン事業部 ●ホームヘルスケア事業部 ●リースキン事業部
 ホームヘルスケア事業部 山形市銅町二丁目21番4号 TEL (023) 674-9600
 支店・営業所 仙台支店/新庄営業所/庄内営業所

医学書のことならお任せください
 日本医書出版協会認定医学書専門店
 医学書、看護学書、医書一般

株式会社 高陽堂書店
 山形市大野目3-1-17 TEL 023(631)6001 FAX 023(632)1168
 http://www.koyodo.com/ email info@koyodo.com

山形県より、福祉用具販売・取付の推薦を
 いただき、官公需適格組合証明を取得
協同組合 生活住環境整備山形
 〒990-0805 山形市檀野前13-2
 TEL 023-681-5030 FAX 023-681-7609

平成29年度 介護予防プログラム研修会 報告書

平成30年1月21日に介護予防プログラム研修会を開催したため以下に報告します。尚研修会での写真を別添します。

開催日時：平成30年1月21日 13:00～17:00

開催場所：山形県立保健医療大学 講堂

参加人数：116名（内訳 PT83名、OT12名、ST0名、他団体4名、地域包括支援センター11名、市町村6名）

内 容：司会進行：長沼 誠

1) 「介護予防に対する山形県の取り組み」

講師：山形県健康福祉部健康長寿推進課 高橋 裕人 氏

座長：高橋 俊章

2) 「介護予防事業マネジメントと市町村での取り組み事例について」

講師：東京都健康長寿医療センター研究所

在宅療養支援 研究部長 大淵 修一 氏

座長：岩井 章洋

3) 「住民主体型介護予防事業に対する日本理学療法士協会の取り組み

～なぜシルバーリハビリ体操指導士養成事業なのか～

講師：日本理学療法士協会、茨城県立健康プラザ 大西 耕平氏

座長：黒田 昌宏

所 感：3名の講師の方々に講義していただき、介護予防事業マネジメントの具体的な進め方や県内の状況等について多くの事を学ぶことが出来た。また介護予防事業が地域包括ケアシステムの構築推進に向け重要な一端を担っていることを再確認でき、今後ますます公民一体となつての事業展開を進めていく必要があると感じた。

以上

文責：山形ロイヤル病院 水戸 隼一



●定期的なマイページの確認をお願いします

日本理学療法士協会ホームページ内の「マイページ」の定期的な確認をお願いいたします。「マイページ」内の、会員専用コンテンツでは、教育、学術、職能、福利厚生情報が掲載されております。また、異動申請、会員情報の更新などの各種申請が可能です。

●会員異動届の手続きは済んでいますか

他都道府県理学療法士会からの転入、自宅住所および勤務先の変更、改姓された方は、「マイページ」より手続きをお願いします。

●会員区分について

会員の皆様の中で、自宅会員として異動申請される方がいます。日本理学療法士協会において、会員区分として、勤務先をもつ会員は勤務先会員となります。「マイページ」にて会員区分をご確認の上、現在の登録と異なる方は異動申請の手続きをお願いいたします。

●楽天カードでの会費の納入をお願いします

日本理学療法士協会では、会費納入用クレジットカードとして「楽天カード」を指定しております。会費納入の漏れがなくなり、手数料も無料です。「マイページ」よりお申し込みください。

●新人教育プログラム修了には、マイページでの修了申請が必要です

マイページ内「生涯学習管理」メニュー中の、「生涯学習管理」—「履修状況確認」—「新人」—「修了申請」にて、手続きをお願いします。新人教育プログラムを修了していない場合、認定・専門理学療法士取得に必要な生涯学習ポイントの取得ができません。また、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダーの取得要件を満たしませんので、ご注意ください。

思いやりリハビリ・まごころケア
(有) 福祉用品やまがた

介護用品ショールーム

〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎4-2-40
電話 (0234) 26-1725
FAX (0234) 26-6780



義肢・装具・車いす
他整形医療器具製造・販売

(有) エムサポート

〒990-2212 山形市上柳110
TEL(023)687-2800 FAX(023)687-2812
取引銀行 山形銀行宮町支店(普通)0241881



オーダーメイドの福祉用具

株式会社 ライフケアサポート

山形県東根市温泉町1-13-10
TEL0237(43)6833 FAX0237(43)6832

医療の未来を見つめる総合商社



岡崎医療株式会社

- 本社 山形市あこや町三丁目4番3号
- 山形営業所 〒990-0025 ☎023(代)623-0546番
- 鶴岡営業所 鶴岡市大字安丹字村上4番10号
〒997-0057 ☎0235(代)22-0106番

生命科学・医療福祉分野を総合的にサポートする



株式会社 シバタインテック



■山形支店 〒990-2323 山形県山形市桜田東二丁目1番21号
TEL:023-642-8153 / FAX:023-623-5853
本社(仙台)・荏内営業所・鶴岡営業所・郡山営業所・ロジスティックセンター・メンテナンスセンター



有限会社 山形義肢研究所

厚生労働省
山形県指定
福祉法義肢製作所指定

営業品目
義手・義足・コルセット・補装具
補助ステッキ・松葉杖・車いす
整形医療器具

代表取締役 植松茂夫
山形市飯田五丁目5番39号
電話 (023) 632-5214

編集後記

かわら版17巻を発行いたします。この度、永年の功績が称えられ、高橋穂先生、早坂健次先生、多田利信先生の3名が平成29年度東北ブロック協議会功労賞を受賞されました。受賞された先生方、誠におめでとうございます。理事コラムは最北支部の担当理事、多田雄一先生に書いていただきました。多田先生には前回の一般向け広報誌でも豆知識で「障害者のスポーツとは」と題して書いていただいています。今回も非常に興味深く、自分はしっかりと患者様と向き合っているのかと考えさせられる話題でした。是非ご覧下さい。

三友堂リハビリテーションセンター 島貴

■発行 / 一般社団法人 山形県理学療法士会

■発行者 / 高橋 俊章

■編集者 / 鈴木 健太

■広報部 / 三友堂リハビリテーションセンター

〒992-0057 山形県米沢市成島町3丁目2番90号
TEL (0238) 21-8100 FAX (0238) 21-8119
E-mail : ptkouhoubu@yahoo.co.jp